



防災マップ ～作る目的を理解しよう～

机上で行う図上訓練(D I G)で出てきた情報を、実際に地域を歩いて再確認・再発見し、防災マップにまとめます。

まちあるきを行い、防災マップを作ると、次のような効果があります。

- 楽しみながら地域を探検することで、地域への関心や身近な災害に備える意識が生まれるとともに、地域の人とのつながりが強化されます。
- 改善すべき点を見つけ、行政や地域に情報を発信することで、よりよい地域づくりを進めることができます。
- 作った防災マップは、地域に配布したり、パズルにして楽しく勉強したりすることで、防災意識の啓発に役立てることができます。

××防災マップの目的は、災害時に必要な情報をすぐに取得するためだけではありません××

「なぜ危ないか」を知りましょう。

危険な場所の一覧を作成しただけでは、それはその場しのぎにしかありません。

「どこが危ないか」よりも、「なぜ危ないか」を知ることが大切です。

どのような災害のときに、どのような危険性があるのかを知ることは、自身を守る力につながります。災害に対する正しい理解や自分の身を守る力は、地域から離れた場所でも大いに役立ちます。



防災行動へつなげましょう。



防災マップを作ることで防災意識を高め、建物の耐震化や家具の転倒防止対策など防災への備えや、防災訓練への参加といった、被害軽減に向けた**住民の具体的な行動に結びつけていくことが重要**です。

みんなで作成・見直しをしましょう。

マップは、当事者が、実際に現地で集めた情報を元にして作り、定期的な見直しを積重ねていくものです。これらの作業は、地域の住民・団体で話し合いながら進めていくことになり、その時すでに参加者の頭では、地図に書いた情報の背景が理解され、災害時の対応が考えられています。マップ作りは、**状況に応じた適切な対処を取るための訓練**になり、また、災害時に地域が協力して減災に努めるための体制作りにもつながるのです。

